

湘南キャンパスに本館棟完成・全学科集結



グラウンドから望む新校舎全景

学科の基本理念の涵養を期待!!



拓友会会長
近藤良三郎

今年は、拓友会結成55年、国際地域開発学科(旧拓植科)設置65年という節目を迎えました。

この事を、112年に及ぶ日本大学の、長い伝統の中の一慶事として、皆さんと共に、に、その慶びを分かち合いたいと存じます。

昨年12月には、湘南キャンパスに14階建の校舎が建設され、今年1月30日、新校舎にて落成祝賀会が催されました。

これに先立ち、昨年12月8日には、東京三軒茶屋の校舎で、教職員、学生、OBの外、地域住民の方々も参加して、大変賑やかな内に、「サヨナラパーティー」が開かれ、東京校舎に決別いたしました。

そして今年4月から、当学部の発祥の地である六会の地に戻り、全学科が揃って新学期を迎える事になりました。

30万坪に及ぶ広大な校地で、整地、開墾に汗を流した往時を偲び、誠に感無量の思いであります。

今年4月には、新しく171名の拓友を準会員としてお迎えしましたが、皆さんには、優れた先生方と、充実した設備、そしてすばらしい環境の中で、当学科設置以来の基本的理念である「開発の精神と異文化交流に貢献し得る素養」を身につけられる様期待しております。

既に御案内通り、当学科は第二次大戦後、当時の占領軍の指示により廃止されましたが、学校当局と拓友会の努力によって、昭和38年に、ようやく復活されたという苦難の歴史があります。然し、復活後、既に40年近い年月を経て、「長いブランク状態」のあった拓友会の会員の年代層も、現在では、十分に補完、充実されており、8千を超える会員諸兄は国の内外で、大いに活躍しております。

当会報「拓友」は、学校と準会員、会員相互の媒体となるものでありますが、大いに利用していただき、拓友会の発展向上に役立てていただきたいと思います。

皆様の御健康、御発展を願い御挨拶いたします。



14階建ての本館棟

湘南、学術 ランドマーク完成



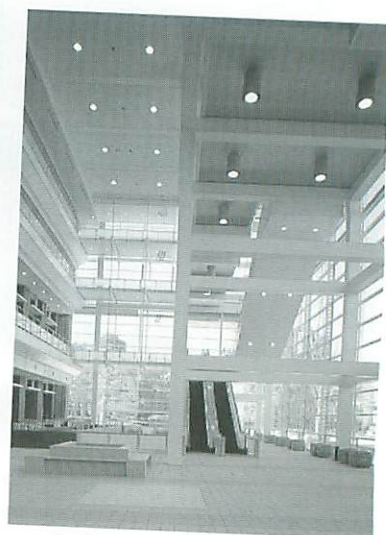
六会日大前駅方向より航空写真

モニュメントの文字
学祖 山田顕義伯の蔵書より抜粋

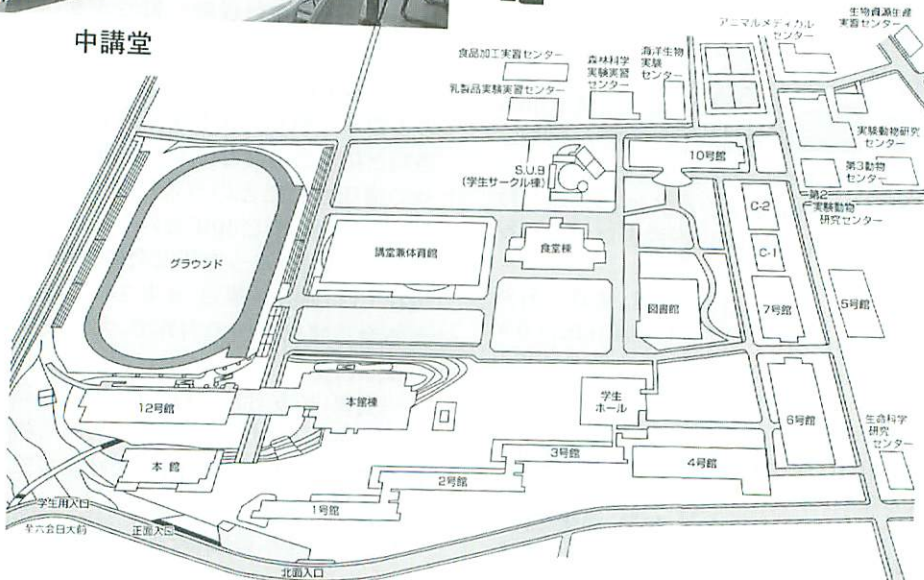


中講堂

キャンパスの 情報発信基地



本館メインエントランス



六 会 見 聞

何年ぶりであろうか、六会日大前駅を降りて、余りの変わりように言葉が出なかった。驚いた。また、完成したばかりの14階建て学部本館は六会に馴染んでいるのが印象的であった。これが旧農獣医学部の校舎なのかと感動した。

その12・13階に国際地域開発学科(旧拓植学科)の研究室があり、相模湾、伊豆大島も見渡せる。絶景である。富士山。一度来訪し、一見の価値あり。校舎内も、生物資源科学部として病院施設・酪農施設等が点在、バラ園や庭園施設を一般の人へ開放され、花見の酒盛りもやっていた。近隣の人達にも喜ばれる開放されている学園に思わず喜びを感じた。

30数年前とは想像がつかない変わりようだ。是非「六会」を訪問し、実感して欲しいものだ。

谷地(17期)昭和44年卒業



江ノ島がすぐそこに



新本館玄関前にて
左:平岡(17期) 右:谷地(17期)両氏

さようなら・東京校舎

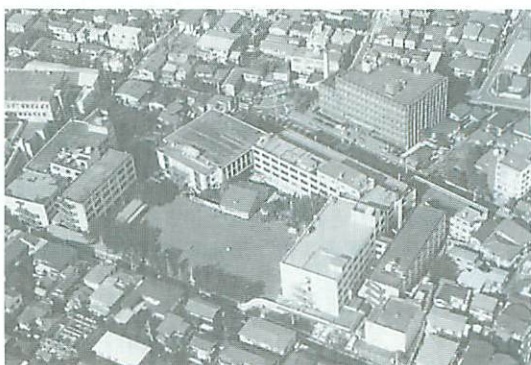
年度末の学部全面移転を控え、平成13年12月8日(土)に、東京校舎へのお別れと地域住民への感謝を込めて、「ファイナルフェスティバルイン三茶2001」が開催された。国際、食経両学生有志による実行委員会が中心となって企画された。中庭には、各ゼミの出店が32店舗(一部は1号館)出揃い、中央ステージでは音楽ライブが繰り広げられた。いつもは静かな東京校舎が久しぶりに賑やかな雰囲気包まれた。

当日の様子はここで見る事が出来ます。

<http://members.jcom.home.ne.jp/0711393501/>



ファイナルフェスティバル エンディング



思いで残る東京校舎

研究室担当教員紹介



国際協力研究室:増見国弘助教授
途上国が経済発展を実現するには、国際協力が欠かせません。実際に行われている国際協力を分析して問題点を追求するとともに、望ましい国際協力のあり方を研究しています。 本館13階



農業経済研究室:陳仁端教授
世界的な食料問題、日本の食料自給率の低下、経済における農業の役割、日本の農業の国際的関係、農業面での国際協力のありかた、農業をめぐる資源・環境問題などがテーマです。 本館13階



国際資源経済研究室:緒田原一教授
現代の世界経済は激変期にあります。その先端的課題をとらえて理論的・実証的・政策的に研究を進めています。国際金融問題、国際資源問題、貿易問題などを対象としています。 本館13階



応用理論経済研究室:嘉数 啓教授
近代経済学の2本の柱、ミクロ経済学とマクロ経済学を応用して、日本経済の実態を説明します。またマクロ経済学の観点から、アジア諸国の経済の把握にも努めています。 本館13階



国際開発研究室:半澤和夫教授
貧困や食料不足に苦しむ国があります。何故このような問題が発生するのか、どうしたら解決できるのか研究しています。特にサハラ以南のアフリカに注目しています。 本館13階



国際文化研究室:井上雅也助教授
異文化との接触や交流、また文化が伝授する際に生じる現象や諸問題を比較文化の視点から考察。対象地域の風土・歴史・文化・社会と人々の生活を広く研究しています。 本館12階



言語・地域研究室:藤田泰伸専任講師
異文化の理解を深めるために、言語(インドネシア語、英語)を道具として用いながら、開発途上国、とりわけ東南アジアを対象とした地域研究を行います。 本館12階



**国際環境保全研究室
ロイキンシュック専任講師**
環境劣化の主要因である土壌侵食機構の理科学的な解析や保全対策手法の開発、さらに農業資源管理の最適条件を導くためにGISや情報技術を利用したモデル開発などの研究をしています。4号館2階



熱帯資源作物研究室:倉内伸幸助教授
途上国における在来食用作物の遺伝的特性を解明し、現地のニーズに合った品種改良を目指すとともに、それらの有効利用と管理について研究しています。 4号館2階



国際経済研究室:上原秀樹教授
農産物貿易の動向と環境問題、加工食品貿易パターン、現状分析、世界の食料・食品問題など、途上国の農業とフードシステムをめぐる制度の対外的関連を系統的に研究しています。 本館13階



農業経済(第2)研究室:北野 収助教授
内外の地域づくりを「人・組織・制度」という観点から研究しています。「地域づくりは人づくりから」というように、開発に関わる全ての人の主体的参加と自助努力が重要です。このプロセスに、外部者が必要に応じてアイデアを提供し、自助努力を支援すること、そのための環境づくりが、開発をプランニングすることであると考えています。



産業開発研究室:長谷川勝男助教授
発展途上地域の経済発展を、産業構造の変化、特に工業部門の創出と拡大から研究。地域経済のあり方について調査・分析し、バランスのとれた工業化を考えます。 本館13階



国際経営・流通研究室:早川 治助教授
農業経営の国際比較、アグリビジネスの実態、多国籍企業の動向のほか、農産物流通・市場の分析などが研究対象。国境を越えた経営活動の新しい課題や責務を考えます。 本館13階



**コミュニケーション・言語研究室
相座明夫専任講師**
異文化を理解するために「ことば」を通してコミュニケーションを図る必要があります。英語やスペイン語を一つの道具として、さまざまな異文化を理解することを目指します。本館12階



国際社会研究室:緒方幸廣専任講師
国際社会の問題として、民族-国家、移住-同化、地域-国家、先発-後発、開発-保全、文化摩擦などがあります。これからの問題を社会的な立場から研究しています。 本館12階



国際植物資源研究室:権丈敬次専任講師
国際農業開発における技術面の研究を中心としています。熱帯・亜熱帯園芸作物や導入作物の環境要因と形態形成のメカニズムの解明及び環境保全型農業に関する研究も行っています。 本館12階



国際環境生態研究室:林 幸博助教授
熱帯では土壌劣化や砂漠化にともなう農業危機が深刻化しています。乾燥地や多湿地の自然生態系の再生と持続的農業の確立が目標。熱帯での現地調査なども実施しています。 4号館2階

拓友会事務局
生物資源科学部 国際地域開発学科内
TEL&FAX 0466-84-3457(事務局直通)
E-メールアドレス osamu@brs.nihon-u.ac.jp

入 学 状 況

国際地域開発学科の平成14年度新入生は171名で、うち男子が105名、女子が66名、留学生2名(中国)です。男女比率は男61.4%、女38.6%です。また、彼等の出身高校をみると日大付属高校が55名、非付属高校が116名で付属比率は32%であり、公・私立の比率は公立43%、私立57%となっています。さらに首都圏比率(東京・神奈川・埼玉・千葉各都県出身者)は62%で、近年の傾向である高い首都圏比率を裏付けています。

ただ、1年次のクラスとしては、休学・再履修者が18名(男14名、女4名)加わるので総数は189名になります。

就 職 状 況

平成13年度卒業生の進路先は就職指導課で現在、集計中であり、詳細についてはまだ正式な発表がなされていない。

拓友会事務局でえた情報によれば、10名以上が大学院に進学し、海外留学も2名以上いる。また、公務員については警視庁、千葉県警、秋田県警に就職していることしかわからない。農協関係では熊本県経済農業協同組合連合会、梨北農協、かしまなだ農協がある。食品関係では、デニーズジャパン、旭酒造があり、薬品関係では日本全薬工業、デパートコンビニ関係ではセブンイレブンジャパン、マルエツ、旅行関係では全日空、JTB、ミキツリスト、横浜ベイシェルトランホテル、建築・不動産関係では安達産業グループ、旭ホームズ、レオパレス21など、事務機器・コンピュータ関係で東京ゼロックス、ユニシステム、メディアバスターズ、大塚商会など、ほかにつばさ証券、サカタのタネ、河合楽器製作所、三貴、明治生命、信越放送などが卒業生の進路先となっている。

5月末には就職指導課より詳細が発表になるので、拓友会総会では報告できるはずである。

昇 格

倉内伸幸先生が本年4月より助教授に昇格されました。

長野県出身で昭和62年3月に本学科を卒業、その後信州大学大学院、青年海外協力隊チュニジア国派遣を経て平成5年より学科の研究、教育に参画。専門は西アフリカ、東南アジアの有用な熱帯作物の遺伝と利用について、担当科目は「資源作物学」「遺伝資源論」などです。これからは学科の発展のために一層のご活躍が期待されます。

退 職

広瀬先生が本年1月をもって退職されました。先生は昭和57年に本学短期大学部から本学科に移籍されて以来、ほぼ20年に亘って本学科の発展のためにご尽力されました。その間学科主任、国際地域研究所所長を歴任、また「大来賞」を受賞されるなど内外ともに活躍されました。

今後ともご健康に留意され、お健やかな毎日をお過ごし下さいように。

教授の横顔 嘉数 啓 教授



嘉数先生は1942年沖縄県に生まれた。「島嶼の持続可能な発展」の研究をライフワークとされる先生にとって沖縄こそが全ての原点である。国際人の定義を「自国(地域)にしっかりと根を持ちつつも、常に、外国及び自国の両方の事象を相対化した複眼的な立場から理解することのできる人」とすれば、嘉数先生は紛れもなく真の国際人である。先生のご経歴は多用かつ国際的である。1964年、琉球大学経済学科卒業の後、金融関係の仕事を経て、アメリカに留学、1971年にネブラスカ大学よりPh.D.(経済博士)を取得された。その後、琉球列島米国民政府金融エコノミスト、琉球大学助教授、アジア開発銀行エコノミスト、国際大学教授・研究科長、名古屋大学大学院国際開発研究科教授、沖縄振興開発金融公庫副理事長歴任を経て、2001年4月に本学科教授に就任された。これまでに、日本国内のみならず海外においても、単行本や学術論文を数多く発表されている。先生の豊富なご経験と膨大な学識は、我が拓友会にとっても、大きな財産となる。学科の発展に一層のご尽力とご指導をお願いしたい。それにしても、現役の拓友諸君は幸せである。嘉数先生から、学べることを学べるだけ学びとって欲しい。

Frontier Spirit

「あこがれのカナダで夢を実現」

秀川 恵子 平成11年卒業

大学3年の夏に、カナダで短期留学をしたのが全ての始まりでした。英語が思ったより分からず悔しい思いをした私は、帰国後、英会話学校に通って会話力の向上に努めました。卒業後は損害保険の会社で働いていたものの、やはり「海外で働いてみたい」という漠然とした夢が捨てきれず、思いきって会社を辞め、ワーキングホリデーのビザを取得してカナダに行きました。

カナダで英会話の学校に通いながらの就職活動は思ったより大変でしたが、おかげで学校のマーケティングスタッフ兼ジャパニーズアドバイザーとして採用されることになりました。職場には日本人が私しかいないので、日本関係の仕事は全て私に回ってきます。

日本のエージェンシーに「拝啓・・・」とかいうビジネスメールを出したり、資料を送付したり。その合間にマネージャー「これ(日本語の書類)を英語に訳して」とか、「これ(日本のマーケット)のリサーチしておいて」とか・・・。



カナダ国会議事堂前にて

ウェブサイトの日本語バージョンの作成、日本の留学雑誌への広告の打診や校正、エージェントへのアグリーメント作成などなど、辞書と格闘しながらの仕事が尽きることなく続きます。私が新人だということも全くおかまいなし。「気疲れ」プラス「語学力」プラス「仕事の量」、もう時間がいくらあっても足りません。

同僚との会話は全て英語なので(当たり前ですが)、それだけでストレスを感じてしまう時もありました。正直、何度も根を上げそうになりました。でも学生が色々頼りにしてくるので、それを励みに頑張っています。

やっぱり海外でお金を稼ぐというのはとても大変ですね。けれどもディレクターから「ワーホリビザ終了後はワークビザを出す準備もある」と言われた時は「期待されているんだな」と思い、少しだけ嬉しかったです。これからどうなるか分かりませんが、精一杯努力していこうと思っています。

受賞

「日本熱帯農業学会学会賞奨励賞」受賞

倉内 伸 幸助教授

倉内先生が平成14年3月28日、日本熱帯農業学会学会賞奨励賞を受賞されました。

受賞題目は、「一代雑種オオムギの作出に関する遺伝育種学的研究」で熱帯半乾燥地域におけるオオムギ品種の新しい育種方法について評価されたものです。

研究の一層の進展をお祈り致します。

「日本蚕糸学会進歩賞(技術賞)」受賞

川上 裕司氏 昭和55年卒業

川上裕司氏が日本蚕糸学会進歩賞を受賞されました。

受賞題目は「プライマーKAIO 1 とKAIO 2 を用いたPCRによるNosema bombycis の識別」で、家蚕の微粒子病原体の新しい診断法の確立が評価されたものです。現在、フジサンケイグループの研究機関、エフシージー総合研究所生活情報研究室室長。

今後の一層のご活躍をお祈り致します。

拓友の輪



立山室堂にて(標高2,450m)

右から 稲垣末松(4期) 松沢成浩(6期) 富永政次郎(6期)
近藤良三郎(4期) 長谷川清治(6期)

合同クラス会開催。昨年11月7～9日、越中・立山国際ホテルに於いて合同クラス会を開催した。長谷川清治君と富永政次郎君のご尽力によるものだった。

参加者は4期稲垣末松、近藤良三郎、6期長谷川清治、松沢成浩、富永政次郎の5名である。前回の99年11月、熱海におけるクラス会には14名が参加し、次回開催を要望されたのであったが、僅か2年の歳月の間に、高齢者の私達には大きな変化が生じていることを物語っている。

第一日は立山国際ホテルに宿泊、青春時代の思い出に花が咲く。翌8日は晴天。参加者を慰める如く、山麓は全山紅葉。美女平よりバスに乗る。徐々に高度が上がるにつれ、2,450mの室堂平から見上げる

立山連峰は、2日前に初冠雪したばかりで、雲一つない群青の空、くっきり、眩しく輝いていた。又微風もない穏やかな小春日和で、こんな日は滅多にないと地元の運転手が褒める。2度とお目にかかれない見事な景観に私達も最大の賛辞を送ったのである。

名残惜しい立山を下山し、タクシーで高岡市に向かい国宝端竜寺を拝観し、氷見で一泊。日本海の魚を主としたすばらしい料理を肴に歓談。

最終日は北陸特有の雨混じりの空で、前日の美しい山々は模糊としていた。あのような風光明媚には二度と会えないのだからと思う。誠に実り多き2泊3日のクラス会であった。末筆ながら同窓諸氏のご寿康をお祈り申し上げます。

なお地元幹事、長谷川清治君(富山市)は、地域社会と産業界への貢献により、勲五等瑞宝章を受章されている。(稲垣記)

拓友賞



平成13年度拓友賞は篠宮裕子さんに決定しました。篠宮さんは学業成績、行動とも優秀で、将来拓友会活動に積極的に参加してくれるということで選ばれたもので、今後確実に女性の数が増えてくる拓友会において、リーダーシップをとるものと期待されています。

平成13年度総会・懇親会開催

「平成13年度拓友会総会」は、平成13年6月30日(土)、「南国酒家原宿店」にて数多くの拓友が出席して開催されました。総会では近藤会長を議長に選出した後、以下の議題が慎重に審議されました。

(1)平成12年度事業報告の件

総会・懇親会、幹事会の開催、名簿の整理、拓友会報の発行、宮崎賞・拓友賞の授与、卒業生への記念品贈呈

(2)平成12年度決算報告・監査報告の件

平成12年度会計決算報告並びに収支決算書が審議され、松澤・山中両監事より会計処理が正確である旨、監査報告書を報告されました。

(3)平成13年度事業計画書の件

①平成13年度総会・懇親会の開催6月30日(土)

「南国酒家原宿店」にて開催

②幹事会の開催

③名簿の整理

④「拓友会報」第25号の発行

⑤宮崎賞・拓友賞の授与

⑥卒業生への記念品授与

※懸賞エッセー募集

次の要領で懸賞エッセーを募集いたします。選考のうえ上位3名を表彰のうえ副賞を贈呈し、「拓友」に掲載いたします。また応募者全員に記念品を贈呈いたします。

<応募要領>

■応募資格：国際地域開発学科在学生及び拓友会会員

⑦記念誌の頒布

⑧湘南キャンパス記念植樹並びに記念パネルの贈呈
(4)平成13年度会計予算の件 総額4,716,917円

(5)その他

①日本大学生物資源科学部校友会選出幹事変更の件

②下条副会長辞職の件

上記の議題に関して、早川事務局長(代理)より議事資料の説明の後、慎重審議の上、いずれも承認されました。

懇親会は年度中に他界された拓友を偲び、全員で黙祷を捧げた後、「翡翠の間」に於いて学部校友会はじめ各分会会長のご臨席のもと、開催されました。学部校友会茂澤晃会長のご祝辞、近藤会長の挨拶の後、広瀬昌平教授による乾杯の音頭で懇親に移りました。

会は級友との再会を喜び、また新学科主任の上原秀樹教授により、学科新スタッフ6名が紹介されるなど、和やかな雰囲気でも盛り上がりしました。

最後に浜口副会長の挨拶で閉会しました。

- 課題：①私の異文化体験 ②環境問題を考える ③これからの国際地域開発学科 ④私の生き方
- 応募要項：1. 字数：800字～1000字 2. 締め切り：随時
- 提出先：拓友会事務局 国際経営・流通研究室 早川 治

平成14年度総会ならびに懇親会のお知らせ

平成14年度の総会ならびに懇親会を下記の通り開催いたしますのでご案内いたします。なお、出席希望者はご面倒でも事務局までお知らせください。

記

開催年月：平成14年6月22日(土)

場 所：日本大学生物資源科学部 湘南キャンパス

時 間：「学内見学」午後2時から4時 本館1階午後2時集合

「総 会」午後4時から5時 本館7階

「懇 親 会」午後5時から7時 食堂棟3階

会 費：お一人 3,000円

学生及び同伴者2,000円(当日会場で徴収します)

参加希望者は、6月10日(月)までに拓友会事務局までお知らせください。

〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866

日本大学生物資源科学部内 拓友会事務局 早川 治

TEL&FAX. 0466-84-3457 (事務局直通)

E-メール osamu@brs.nihon-u.ac.jp

INFORMATION

- 日本大学生物資源科学部のホームページがリニューアルされました。対象を限定せず、誰にでもみて頂けることを目指したものとなっています。

URLは次の通りです。

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/>

また、校友会のURLは次の通りです。

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/webadmin/alumnus/index.html>

- 8744名の拓友の輪を広げよう!!
 - (1) 地方大会、懇親会の開催。
 - (2) 各種イベントの開催(同期会、ゼミOB会、恩師との食事会、ゴルフコンペ等)
 - (3) 住所不明の拓友会員の情報及び慶弔情報
 その他盛りだくさんな計画・情報を拓友会事務局にご一報下さい。
事務局から、会員情報、その他規定の範囲内で皆様の活動を応援します。

- 会員のE・メールアドレスの登録

最近E・メールが一般化してきており、各自の情報のやり取りに利用されています。今後、拓友会での情報伝達にE・メールを利用する事も考え、今回、会員諸兄のE・メールアドレスをお聞きしています。返信ハガキにアドレスをご記入いただいた会員には、拓友会や大学校友会の情報をメールでお知らせする事が出来ますので、ご希望の方はお知らせ下さい。

編集後記 4月6日「拓友」編集委員会を開催、4年ぶりに湘南キャンパスを訪問しました。

六会日大前駅に降り立つと、完成した14階建ての本館棟が目に入ります。今年は桜の開花が早く、すでに新緑となった木々に取り囲まれるように本館棟は建っていて、よく周囲の環境に溶け込んでいます。キャンパス入口から本館棟に入ると三方がガラス窓に囲まれた5層吹き上げの空間が広がり、どこかの高級ホテルのロビーのようです。事務局の御案内で最上階の14階へ昇ると、すぐ向こうに江ノ島が見えます。晴れた日には大島、富士山が見えます。眼下には東京ドーム12個分の広大な緑あふれるキャンパスが広がっています。国際地域開発学科の研究室は12・13階にあり、そこからの眺望も爽快な気分させてくれます。

キャンパスのあちこちを御案内いただき、編集員の口々からは「スゴイ!」、「立派だ!」、「いいねー!」と驚きと



感嘆の声が漏れっぱなしでした。まさに生物資源科学を学ぶにふさわしい環境です。後輩たちには大きな夢を抱いて、生き生きとしたキャンパス生活を送って欲しいと願うばかりでした。

今号は国際地域開発学科の藤沢への集結を記念し、完成した湘南キャンパスを特集しました。拓友の皆様もぜひ一度御訪問下さい。

発行：日本大学拓友会
編集：会誌編集委員会 平岡 完勝
事務局：日本大学生物資源科学部
国際地域開発学科内
住所：〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL&FAX. 0466-84-3457
印刷：Basic Print